



实用新案登録



後記号なし

昭和46年7月17日

特許庁長官 井 土 武 久 殿

1. 考案の名称
トケイヤコウ シトウソウチ
時計機械の始動装置

2. 考案者

ギヨウダレフジワラマサ
埼玉県行田市藤原町2-38-8

マダラキオ
町田 昭雄

3. 実用新案登録出願人

メグロクナカメグロ
東京都目黒区中目黒1丁目8番3号

・ ジエコー株式会社
セタ ギチロウ
代表者 千田 健一郎

4. 添付書類の目録

(1) 明細書	1通
(2) 図面	1通

46-06256

特許庁

15 7.19

少司第二課

48-36878-01

明細書

1. 考案の名稱 時計機構の始動装置

2. 實用新案登録請求の範囲

復帰ばねにとつて、常に一方内に回転力を附勢されたスターター板に、中央部をほぼロ字形に掘り、先端部に傾斜面を設けた内薄の板ばねからなるヤツクレバーを装着し、該レバーの先端部を駆進機構と連動する回転体の外周に係合させて、該駆進装置に回転力を附勢するよう構成した時計機構の始動装置。

3. 考案の詳細な説明

本案は時計機構、特に磁気駆進時計に用いて最適な始動装置に関する。

従来の始動装置は第4図に示すように、直線状のレバーを駆進機構と連動する回転体の外周に係合させ、該レバーの復帰時に回転体を附勢するものであつた。このためこの種の始動装置はしばしば該レバーの先端が回転体の齒部頂点に突当り、第3図に示すように突張り現象を起して、時計機構の始動を全く不能にさせてしまうことがあつた。

48-36878-02

さらに、該レバーを回転体に保合させる際、該曲車が逆転し、磁気駆進機時計においては指針が反時計方向に回転したり、該レバーの復帰時に回転体を正方向に回転させても、前記の逆方向回転と相殺されて、所望の回転力を附勢でさないということがあつた。

本案は上記突張り現象と逆転動作を防止し、確実な回転力を附勢する始動装置を提供するものである。

以下、本案実施例を図について説明すると、1は修正軸で、スプリング2によつて常に下方(第2図参照)に押圧されている。

3は修正軸1に固着する修正カナで、指針修正輪列(図示省略)と回転連絡するものである。

4はスターターボー板で、一部を横方向に折曲げた傾斜板4aを形成し、復帰ばね5によつて常に該傾斜板4aは前記修正カナ3の外周に押圧されている。

6は中央部6aをねばり字形に折曲げ、先端部6bに横斜面6b'を設けた両端の板ばねからなるナットタレバーで、一端を前記スターターボー板4に固定

している。7は脱進機構(図示省略)と連動する回転体で、前記キックレバー6の先端部6bの傾斜面6b'が該回転体7の外周上に隣接して位置する。

上記構成において、修正軸1をスプリング2aに抗して作動させると、修正カナ3の周縁に接する傾斜板4aは復帰ばね5に抗して図上左方(矢印)に押出され、一体に構成するスター・ターボ4及びキックレバー6を時計回転方向に回転させる。従つて、キックレバー6の先端部6bは回転体7の當部に接するが、ある程度該回転体に回転負荷があるため、この先端部6bはその傾斜面6b'を中心部6aを折曲げたJ字形部分によって内方(スター・ターボ4側)にたわみ、回転体7の當部外周縁上を運動し、再び該回転体7の周縁より離脱する。修正軸1の作動範囲(ストローク)が短い場合は当然のことながら、第1圖の破線に示すように回転体7と隣合する中金歯階で停止する。

次に修正軸1を手放すと、該修正軸1はスプリング2aによって、たスター・ターボ4及びスター

ターボ4と一体のキックレバー6は復帰ばね5によつてそれぞれ瞬時に復帰するが、この復帰時においてキックレバー6の先端部6bが回転体7の外周歯部に噛込み、該回転体7を正方向（図上時計回転方向）に回転させる。また、この復帰時にキックレバー6の先端部6bが回転体7の歯部頂点に突当た場合においても、前記と同様に中央部6aのH字形部分によつてこの先端部6bは内方にたわみ、復帰ばね5の回転復帰力によつて突張り現象は解除され、引続いて該回転体に回転力を附与する。

本案は以上のようにキックレバー6を回転体7に係合させる際は中央部6aを折曲げたH字形部分と、先端部6bの傾斜面6b'によつて、該先端部6bは回転体7の外周歯部上を捲動して、回転体7に逆方向の回転力は与えず、復帰時にのみ正方向に回転せるものであり、さらに復帰時に上記先端部6bが回転体7の歯部頂点に突当つても、上記H字形部分によつて、該先端部が内方に這げ（たわみ）、突張り現象を防止するものである。

このように、本案は従来の始動装置が有していたす

べての欠点を解決すると共に、該キックレバーは内薄の板ばねを折曲げるだけであるから構造も簡単で極めて安価に提供でき、実用上の効果も大きい。

4. 図面の簡単な説明

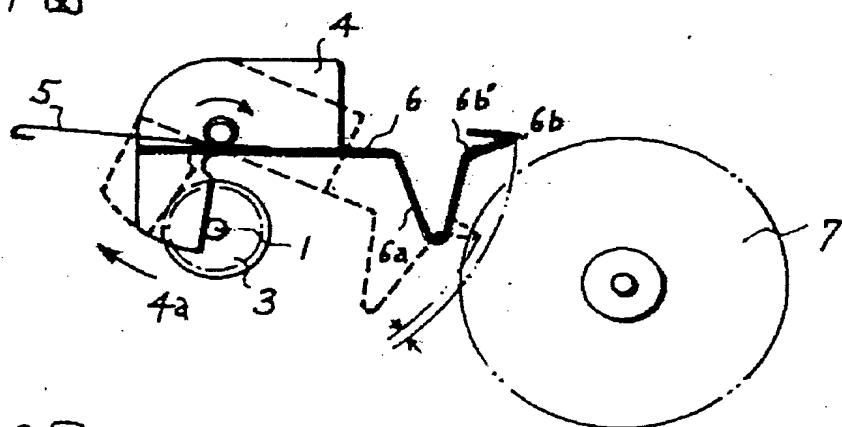
第1図は本発の一実施を示す要部平面図、第2図は第1図の拡大側面図、第3図は実験現象の説明図、第4図は従来例を示す概略図である。

1は修正軸、4はスターター板、5は復帰ばね、6はキックレバー、7は回転体である。

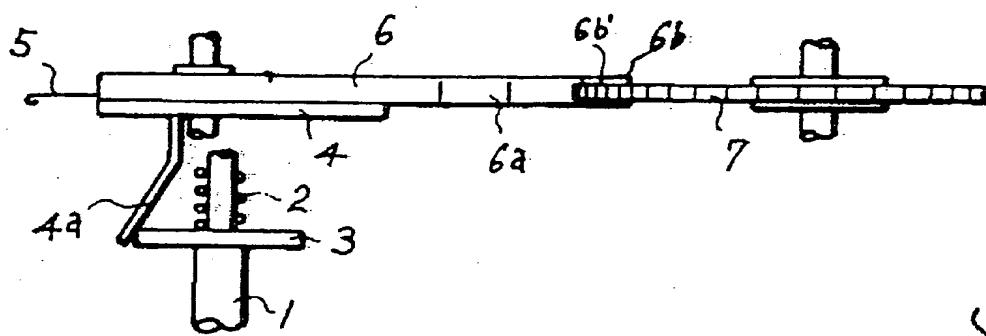
48-36878-06

図面

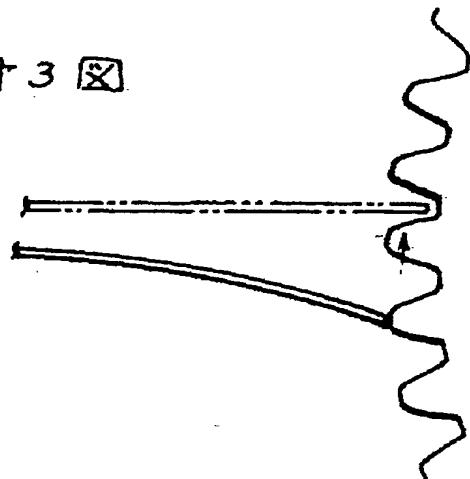
第1図



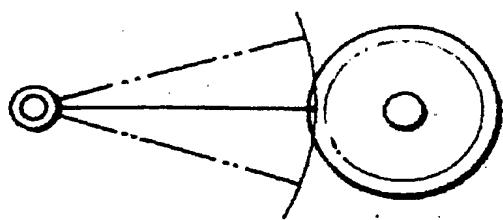
第2図



第3図



第4図



48-36878-07